

**CFP 算定キット
チュートリアル用
マニュアル**

2012 年 4 月 1 日版

産業環境管理協会

1. このチュートリアルについて.....	3
2. 検証申請書と CFP 算定キットを使用するメリット.....	3
3. チュートリアルの流れ.....	5
3-1. 算定対象の題材.....	5
3-2. 2つの方法による算定.....	6
3-3. テンプレートについて.....	6
4. ポリバケツの算定（テンプレートなし）.....	6
4-1. 入力の準備.....	7
4-2. データの入力.....	7
4-2-1. 原材料調達段階－原材料製造の入力.....	7
4-2-2. 原材料調達段階－原材料輸送の入力.....	9
4-2-3. 生産段階の入力.....	10
4-2-4. 流通－製品輸送の入力.....	11
4-2-5. 廃棄・リサイクル段階－廃棄物輸送の入力.....	12
4-2-6. 廃棄・リサイクル段階－廃棄物処理の入力.....	12
4-3. 検証申請書の作成.....	13
4-3-1. 入力内容のチェック.....	13
4-3-2. 下書き生成.....	14
4-3-3. 検証申請書の出力.....	16
5. ポリバケツの算定（テンプレートあり）.....	17
5-1. テンプレートのインポート.....	17
5-1-1. テンプレートのダウンロード.....	17
5-1-2. テンプレートのインポート.....	17
5-1-3. インポートされた内容の確認.....	18
5-2. データの入力.....	19
5-2-1. 原材料調達段階－原材料製造の入力.....	19
5-2-2. 原材料調達段階－原材料輸送の入力.....	20
5-2-3. 生産段階の入力.....	21
5-2-4. 流通段階－製品輸送の入力.....	23
5-2-5. 廃棄・リサイクル段階－廃棄物輸送の入力.....	23
5-2-6. 廃棄・リサイクル段階－廃棄物処理の入力.....	24
5-3. 検証申請書の作成.....	25
6. 注意事項・付加情報.....	25
6-1. 操作マニュアル.....	25
6-2. バックアップの作成.....	26
6-3. 「段階」を修正するときの注意点.....	26

1. このチュートリアルについて

CFP 算定キットのチュートリアルの目的は、CFP 算定キットの基本的操作を習得することです。CFP 算定キットには CFP の検証を申請するに必要な「カーボンフットプリント算定結果・表示方法検証申請書」の全てのシートが含まれており、このチュートリアルでは、検証申請書出力するまでの一連の手順を解説しています。

2. 検証申請書と CFP 算定キットを使用するメリット

必要な説明がなされている検証申請書においては以下のように、データの根拠からどのようにして活動量、GHG 排出量を算出したかの過程が明確に記述されています。

図 1：必要な説明がなされている CFP 検証申請書の例

(3)流通段階												
サブ タイトル	プロセス名	活動量				参照 箇所	原単位				参照 箇所	備考
		区分	項目名	数値	単位		区分	原単位名	数値	単位		
製品輸送	輸送 工場 →販売店	1次	製品輸送トン キロ	6.35E-01	tkm	A1	共通	トラック輸送 (4トン車:積 載率50%)	3.25E-01	kg=CO ₂ e/tkm	B1	2.06E-01
												0.00E+00
小計												2.06E-01

参照 番号	活動量 /原単位	データ入手方法、計算式、式の説明、データ収集期間、等	(必要に応じて) 関係するエビデンス資料、 説明資料の名称 プロセス番号
A1	活動量	1. 輸送物総重量は梱包材+個装+本体重量 2. 輸送距離、輸送手段は付属書Dのシナリオを使用 $[\text{製品輸送トンキロ}]6.35\text{E}-01\text{tkm} = ([\text{本体重量}]1.20\text{E}+00\text{kg} + [\text{個包装重量}]3.00\text{E}-02\text{kg} + [\text{梱包材重量}]8.00\text{E}-01\text{kg} \div [\text{同梱個数}]2.00\text{E}+01\text{個}) \times [\text{輸送距離}]5.00\text{E}+02\text{km} \div [\text{kg} \rightarrow \text{t}]1.00\text{E}+03\text{kg/t}$	製品仕様書 出荷実績表 PCRシナリオ
B1	原単位	共通原単位 トラック輸送(4トン車:積載率50%)	

一方で検証等の過程などにおいて、製品重量等の繰り返しいろいろな項目の計算に用いられる重要な数値を変更となった場合には、修正箇所が多岐に及ぶこともあるため、手動で修正を行うと作業負荷が高く、修正漏れが発生しやすくなります。

算定キットでは、これらの情報は全て「数値定義シート」で一度だけ入力を行い、自動で「(5)データ入力と算出結果」と「(6)データの根拠」を作成しています。このことにより、重要な数値である本体重量などに変更が生じた場合においても、数値や計算式の作成や転

記、再計算が全て自動で行われますので、見やすい検証申請書を手軽に作成することができます。「数値定義シート」と「(5)データ入力と算出結果」と「(6)データの根拠」の関係は以下の図のようになっています。

図 2：数値定義シートと検証申請書の対応関係

■数値定義シート

LC段階など						活動量			
行の種類	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目（補助項目）	数値名	数値	単位	エビデンス名
区切り行									
数値入力行						本体重量	1.20E+00	kg	製品仕様書
数値入力行						個包装重量	3.00E-02	kg	製品仕様書
数値入力行						梱包材重量	8.00E-01	kg	出荷実績表
数値入力行						同梱個数	2.00E+01	個	出荷実績表
エビデンスなし値 入力行						kg→t	1.00E+03	kg/t	
数値入力行						輸送距離	5.00E+02	km	PCRシナリオ
申請書出力行	流通		製品輸送	輸送 工場 →販売店	製品輸送 トンキロ	製品輸送トンキロ	6.35E-01	tkm	

区分	計算式種類	計算式内容	備考	原単位	区分	s	id	原単位名	数値	単位	データの根拠
1次	自動(数値あり)	[製品輸送トンキロ] 6.35E-01 tkm = ([本体重量] 1.20E+00 kg + [個包装重量] 3.00E-02 kg + [梱包材重量] 8.00E-01 kg) ÷ [同梱個数] 2.00E+01 個 × [輸送距離] 5.00E+02 km ÷ [kg→t] 1.00E+03 kg/t	1. 輸送物総重量は梱包材 + 個装 + 本体重量 2. 輸送距離、輸送手段は付属書のシナリオを使用	共通		525032		トラック輸送(4トン車：積載率50%)	0.325	tkm	

■ 検証申請書

(C3) 流通段階											
サブタイトル	プロセス名	区分	項目名	数値	単位	参照箇所	区分	原単位名	数値	単位	備考
製品輸送	輸送 工場 →販売店	1次	製品輸送トンキロ	6.35E-01	tkm	A1	共通	トラック輸送(4トン車：積載率50%)	3.25E+01	kg-CO2e/tkm	B1
小計											

参照番号	活動量／原単位	データ入手方法、計算式、式の説明、データ収集期間、等	(必要に応じて) 関係するエビデンス資料、 説明資料の名称 プロセス番号
A1	活動量	1. 輸送物総重量は梱包材 + 個装 + 本体重量 2. 輸送距離、輸送手段は付属書のシナリオを使用 [製品輸送トンキロ] 6.35E-01 tkm = ([本体重量] 1.20E+00 kg + [個包装重量] 3.00E-02 kg + [梱包材重量] 8.00E-01 kg) ÷ [同梱個数] 2.00E+01 個 × [輸送距離] 5.00E+02 km ÷ [kg→t] 1.00E+03 kg/t	製品仕様書 出荷実績表 PCRシナリオ
B1	原単位	共通原単位 トラック輸送(4トン車：積載率50%)	

3. チュートリアルの流れ

チュートリアルでは CFP 算定キットの入手方法から、検証申請書を作成・出力するまでの必要なデータの入力、シート出力までを解説します。

3-1. 算定対象の題材

このチュートリアルでは、「ポリバケツの CFP」を算定し、検証申請書を出力するという題材を通して CFP 算定キットの操作方法を学習します。

ポリバケツの CFP の算定では、必要となる前提条件やライフサイクルフローは下記のように設定されています。チュートリアルの題材用として簡略化したフローとなっています。数値も現実のものとは異なります。

[製品の概要]

対象製品	ポリバケツ
製品重量	0.5kg
原材料	ポリプロピレン
成形方法	射出成形
算定単位	製品 1 個
年間生産量	500 個
生産工場の電力使用量	1000kWh/年

原材料のロス、各段階における梱包資材は発生しないものとします。
すべての一次データのエビデンス名称を「製品仕様書」とします。

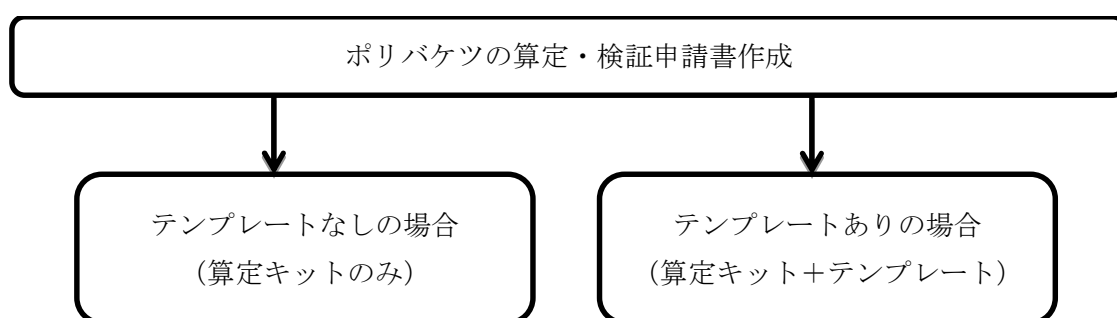
図 3：ポリバケツのライフサイクルフロー図

	原材料調達段階		生産段階	流通段階	使用維持段階	廃棄・リサイクル段階
プロセス	原材料製造 原材料輸送		製品製造	国内輸送	エネルギー使用なし	製品廃棄
投入量	原料製造: 0.5kg 国内陸送: 1000km		投入量: 0.5kg 電力使用: 2kWh	国内陸送: 500km	なし	国内陸送: 50km 廃棄物重量: 0.5kg
フロー	<div>原材料 → 輸送 →</div>		<div>射出成形 ↑ 電力</div> →	輸送 →	使用 →	輸送 → <div>廃棄物処理 ・焼却 ・埋立 ・リサイクル</div>

3-2. 2つの方法による算定

チュートリアルでは同じポリバケツの算定を、「テンプレートなしの場合」と、「テンプレートありの場合」の2種類に分けて算定しています。算出結果は同じになります。「テンプレートなしの場合」において CFP 算定キットの基本操作を学び、「テンプレートありの場合」でテンプレートがどういった点を補助しているか、及び、省略できない部分における入力方法を実施していきます。

図 4：チュートリアルで実施する内容



3-3. テンプレートについて

CFP 算定キットには、PCR で規定されているデータ収集項目やシナリオがあらかじめ入力された「テンプレート」を使用することができます。

CFP 算定キットにテンプレートをインポートすると、データ収集項目として規定されている項目やシナリオがあらかじめ入力された状態から、入力作業を始めることができるので、手間が大幅に軽減されます。多くの PCR について、このテンプレートが準備されていますが、テンプレートが準備されていないものもあります。テンプレートに関する詳細な解説は「CFP 算定キット操作マニュアル」に記述されていますので、そちらを参照してください。

4. ポリバケツの算定（テンプレートなし）

ここでは、CFP 算定キットの最も基本的な使用方法を解説します。ポリバケツの CFP 算定を題材に、最も単純化した流れで入力から検証申請書出力までを解説します。

4-1. 入力の準備

ダウンロードしたエクセルファイル開くと、以下のスタート画面が表示されます。CFP 算定キットのエクセルファイルは複数のシートで構成されています。
スタート画面から「数値定義」シートへ移動はいくつかの方法があります。いずれかによって「数値定義」シートへ移動します。

図 5：スタート画面の「移動」リンクをクリックして「数値定義」シートへ移動

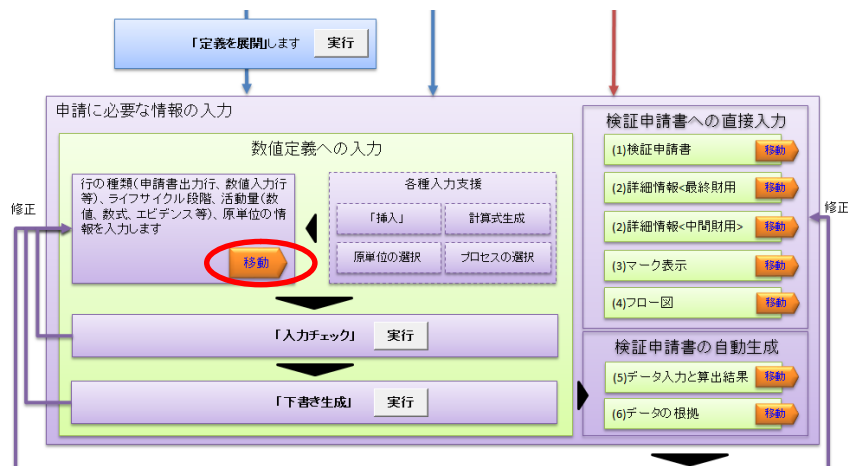


図 6：スタート画面のテキストリンクをクリックして「数値定義」へ移動

2-2. 各シートの編集と下書き生成

申請に必要なデータを下記の「直接編集」シートへ入力してください。
「下書き生成」ボタンを押すと、「数値定義」へ入力されたデータから、「(5)データ入力と算出結果」「(6)データの根拠」のシートが生成されます。
検証等で、申請書で変更すべき点が見つかった場合には、必ず「数値定義」シートへ変更を加えて、「下書き生成」→「申請書出力」を行います。このようにして、最低限必要な箇所だけを変更することで、効率的にデータの変更と、申請書の作成をすることができます。

編集方法	シート名	アクション	備考
直接編集します	(1)検証申請書	それぞれのシートへ移動して編集をしてください	詳細情報表示のカーボンフットプリント値とライフサイクル段階別の内訳については、下書き生成時の計算結果で上書きされます。
	(2)詳細情報<最終財用>		
	(2)詳細情報<中間財用>		
	(3)マーク表示		
	(4)フロー図		
生成	数値定義	下書き生成	CFP算定用データは全てこのシートへ入力して下さい。
	(5)データ入力と算出結果		このシートへは入力しないでください。入力しても下書き生成時に全ての内容が失われます。
	(6)データの根拠		

4-2. データの入力

「数値定義」シートに移動したら算定に必要なデータの入力を開始します。

4-2-1. 原材料調達段階－原材料製造の入力

【手順】

- ① 「ブロック：申請書出力行（原単位：共通）」を挿入する
- ② 「サブタイトル」「プロセス」「項目」「数値」「単位」「エビデンス名」を入力する

③ 「原単位」を選択・入力する

図 7：ブロックの挿入と活動量項目の入力

行の種類	状態	段階	活動量	数値名	数値	単位	製品仕様書	区分	計算
申請書出力行	○	原材料製造	ポリプロピレン製造	PP	5.00E-01	kg	製品仕様書	1次	自動

図 8：共通原単位選択画面の立上げ

行の種類	状態	区分	計算式種類	計算式内容	備考	区分	s	id	原単位名	数値	単位	データの根拠
申請書出力行	○	1次	自動(数値あり)	[PP]5.00E-01 kg=5.00E-01 kg		共通	...					

図 9：共通原単位の選択

種類	分類	名称	単位	GHG排出量	原単位の範囲	補記	検証期
製品	化学工業製品	ポリプロピレン(PP)	kg	9E+00	H22年度(第3期)

図 10：原単位入力済みの状態

行の種類	状態	区分	計算式種類	計算式内容	備考	区分	s	id	原単位名	数値	単位	データの根拠
申請書出力行	○	1次	自動(数値あり)	[PP]5.00E-01 kg=5.00E-01 kg		共通	...	310003	ポリプロピレン(PP)	1.43	kg	

[解説]

原材料調達段階の原材料「ポリプロピレンの製造」の入力から開始します。CFP 算定キット画面の中に表示されている「数値定義ユーティリティ」画面のプルダウンから「ブロック：申請書出力行（原単位：共通）」を選択して「挿入」をクリックします。

「申請書出力行」という新たな行が追加されたら、「LC 段階など」の下位項目「サブタイトル」「プロセス」「項目」と活動量の下位項目「数値」「単位」「エビデンス名」の計 6 項目を入力します。ここでは前出「題材の概要」を参照し、それぞれ「原材料製造」「ポリプロピレン製造」「PP」、「0.5」「kg」「製品仕様書」と入力します。

引き続き、画面を右方向へスクロールして、表頭オレンジ色が表示されるように表示域を調整し、「原単位」を入力します。原単位入力部分の「s」列の水色セルをクリックすると、「共通原単位」のシートが開きます。ここで原単位名「ポリプロピレン(PP)」のセルをクリックして「選択」ボタンをクリックすると、その原単位が自動的に入力された「数値定義」シートに戻ります。

4-2-2. 原材料調達段階－原材料輸送の入力

[手順]

- ① 「ブロック：国内の輸送」を挿入する
- ② 「サブタイトル」「プロセス」「項目」を入力する
- ③ 「輸送物重量」「梱包材重量」「同梱個数」「輸送距離」それぞれの「数値」と「エビデンス」を入力する

図 11：ブロックの挿入と活動量項目の入力

行の種類	状態	段階	サブタイトル	プロセス	項目	活動量	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式内容
申請書出力行	○	原材料調達	原材料製造	ポリプロピレン	PP	重量	5.00E-01	kg	製品仕様書	1次	自動(数値あり)	[PP]5.00E-01 kg=5.00E-01
数値入力行	○					輸送物重量	2.00E-01	kg	製品仕様書			
数値入力行	○					輸送距離	2.00E+01	km	PC-R			
申請書出力行	○	原材料調達	輸送 原材料製造サイト→製品製造サイト	PP		重量	2.50E-01	kg				[PP]2.50E-01 kg=2.50E-01

[解説]

「①原材料調達－原材料製造」と同じ手順で、ブロック行「ブロック：国内の輸送」を挿入します。ブロック行が挿入されたら、「サブタイトル」「プロセス」「項目」にそれぞれ「原材料輸送」「輸送 原材料製造サイト→製品製造サイト」「PP」と入力します。「活動量」の

「輸送物重量」「梱包材重量」「同梱個数」「輸送距離」について、それぞれ「数値」と「エビデンス」を入力します。「輸送物重量」は直接数値を入力することも可能ですが、この題材では「輸送重量＝原材料投入重量」ですので、「原材料製造」に入力した「0.5」を参照するようにすることを強くおすすめします。この場合、輸送物重量の数値セルには「=J15」という式が入ります。「梱包材重量」に「0（ゼロ）」、「同梱個数」に「1」、「輸送距離」に「1000」を入力します。「エビデンス」は、原材料製造と同様に「製品仕様書」を入力します。

[重要]

「原材料重量」や「製品重量」など、CFP 算定の過程で、繰り返し使用される数値は、直接数値を入力せずに、一番上位行で入力されたセルを参照する計算式を入力することが推奨されます。

このように入力することにより、数値の修正が発生した場合でも、修正作業が一か所だけとなり、ミスの発生が抑えられます。このチュートリアルでは、以降、同じ数値の繰り返し入力の際は基本的に参照式を入力する方法で進めます。

4-2-3. 生産段階の入力

[手順]

- ① 「ブロック：生産電力（個数配分）」を挿入する
- ② 「サブタイトル」「プロセス」「項目」を入力する
- ③ 「年間総電力量」と「総生産個数」の「数値」と「エビデンス名」を入力する

図 12：生産段階の入力

数値定義											
<div> <div>数値定義</div> <div>ブロック: 生産電力(個数配分)</div> <div>挿入</div> <div>入力チェック</div> <div>下書き生成</div> <div>フォーマット参照</div> <div><< スタート</div> </div>											
11											
12											
13											
14	行の種類	状態	LC 段階など	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	数値名	数値	単位	エビデンス名
15	申請書出力行		原材料調達	原材料製造	ポリプロピレン製造	PP		PP	5.00E+01	kg	製品仕様書
16	区切り行										
17	数値入力行							輸送物重量	5.00E+01	kg	製品仕様書
18	数値入力行							梱包材重量	0.00E+00	kg	製品仕様書
19	数値入力行							同梱個数	1.00E+00	個	製品仕様書
20	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t
21	数値入力行							輸送距離	5.00E+02	km	製品仕様書
22	申請書出力行		原材料調達	原材料輸送	輸送 原材料製造サイト→製品製造サイト	PP		PP	2.50E+01	tkm	
23	区切り行										
24	数値入力行							年間総電力量	1.00E+03	kWh/年	電力明細2010年1月~12月
25	数値入力行							総生産個数	5.00E+02	個/年	生産実績2010年1月~12月
26	申請書出力行		生産	生産	射出成形	電力		電力	2.00E+00	kWh	
27											
28											
29											
30											

[解説]

電力使用量は生産個数配分により算出しますので、「ブロック：生産電力（個数配分）」を挿入します。次に「サブタイトル」「プロセス」「項目」にそれぞれ「生産」「射出成形」「電力」と入力します。「年間総電力量」は「1000」、「総生産個数」は「500」とします。

4-2-4. 流通－製品輸送の入力

[手順]

- ① 「ブロック：国内の輸送」を挿入し、「原材料調達」を「流通」に修正する
- ② 「サブタイトル」「プロセス」「項目」を入力する
- ③ 「輸送物重量」「梱包材重量」「同梱個数」「輸送距離」それぞれの「数値」と「エビデンス」を入力する

図 13：流通段階の入力

行の種類	状態	段階	サブタイトル	プロセス	項目	活動量	数値	単位	エビデンス名	区分
数値入力行						年間総電力量	1.00E+03	kWh/年	電力明細2010年1月～12月	
数値入力行						総生産個数	5.00E+02	個/年	生産実績2010年1月～12月	
申請書出力行	生産		生産	射出成形	電力	電力	1.00E+00	kWh		1次
数値入力行						輸送物重量	5.00E+01	kg	エビデンス名	
数値入力行						梱包材重量	0.00E+00	kg	部品カタログ	
数値入力行						同梱個数	1.00E+00	個	部品カタログ	
数値入力行						輸送距離	1000	1.00E+03	kg/t	
申請書出力行	製品輸送		製品輸送	製品製造サイト	製品	輸送距離	5.00E+01	km	エビデンス名	1次

[解説]

「サブタイトル」「プロセス」「項目」にはそれぞれ「製品輸送」「輸送 製品製造サイト→店頭」「製品」と入力します。「活動量」では「輸送物重量」「梱包材重量」「同梱個数」「輸送距離」について、それぞれ「数値」と「エビデンス」を入力します。輸送物重量のは「=J15」という参照式を入れます。「梱包材重量」に「0（ゼロ）」、「同梱個数」に「1」、「輸送距離」に「1000」をそれぞれ入力します。「エビデンス」は「製品仕様書」を入力します。

4-2-5. 廃棄・リサイクル段階－廃棄物輸送の入力

[手順]

- ① 「ブロック：国内の輸送」を挿入し、「原材料調達」を「廃棄・リサイクル」に修正する
- ② 「サブタイトル」「プロセス」「項目」を入力する
- ③ 「輸送物重量」「梱包材重量」「同梱個数」「輸送距離」それぞれの「数値」と「エビデンス」を入力する

図 14：廃棄物の輸送の入力

行の種類	状態	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	活動量	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算
数値入力行	○						輸送距離	輸送距離	1.00E+03	km	エビデンス名		
申請書出力行	○	流通	製品輸送	輸送 製品製造サイト→店舗	製品		製品	製品	5.00E-01	tkm		1次	自動値あり
反切り行													
数値入力行	○						輸送物重量	輸送物重量	5.00E-01	kg	エビデンス名		
数値入力行	○						梱包材重量	梱包材重量	0.00E+00	kg	部品カタログ		
数値入力行	○						同梱個数	同梱個数	1.00E+00	個	部品カタログ		
エビデンスなし値入力行									1000	1.00E+03	kg/t		
数値入力行	○						輸送距離	輸送距離	5.00E+01	km	エビデンス名		
申請書出力行	○	廃棄・リサイクル	廃棄物輸送	輸送 ゴミ集積所→処理施設	廃棄物		廃棄物	廃棄物	2.50E-02	tkm			自動値あり

[解説]

「サブタイトル」「プロセス」「項目」にそれぞれ「廃棄物輸送」「輸送 ゴミ集積所→処理施設」「廃棄物」と入力します。「活動量」では「輸送物重量」「梱包材重量」「同梱個数」「輸送距離」について、それぞれ「数値」と「エビデンス」を入力します。輸送物重量には「=J15」という参照式を入れます。「梱包材重量」に「0（ゼロ）」、「同梱個数」に「1」、「輸送距離」に「50」をそれぞれ入力します。「エビデンス」は「製品仕様書」を入力します。

4-2-6. 廃棄・リサイクル段階－廃棄物処理の入力

[手順]

- ① 「ブロック：廃棄物(焼 92・埋 3・リ 5)」を挿入する。
- ② 「サブタイトル」「プロセス」を入力する
- ③ 「廃棄物重量」「炭素の割合」それぞれの「数値」と「エビデンス」を入力する
- ④ 「リサイクル準備」の原単位を入力する

図 15：廃棄物の処理の入力

行の種類	状態	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	数値	単位	ユニット	区分	計算式
数値入力	○					廃棄物重量	5.00E+01	kg	製品カタログ		
数値入力	○					焼却処理の割合	9.00E+01	%	シナリオ		
数値入力	○					埋立処理の割合	3.00E+00	%	シナリオ		
数値入力	○					リサイクル処理の割合	5.00E+00	%	シナリオ		
数値入力	○					炭素の割合	1.00E+02	%	製品仕様書		
数値入力	○					CO2/C	3.67E+00	CO2e/kg			
申請書出力	○	廃棄・リサイクル	廃棄物処理	焼却処理	焼却処理	シナリオ	焼却処理(シナリオ)	4.60E+01	kg	シ2	自動(数値あり)
申請書出力	○	廃棄・リサイクル	廃棄物処理	埋立処理	埋立処理	シナリオ	埋立処理(シナリオ)	1.50E+02	kg	シ2	自動(数値あり)
申請書出力	○	廃棄・リサイクル	廃棄物処理	リサイクル準備	リサイクル準備	シナリオ	リサイクル準備(シナリオ)	2.50E+02	kg	シ2	自動(数値あり)
申請書出力	○	廃棄・リサイクル	廃棄物処理	焼却処理	廃棄物由来CO2	含有炭素	廃棄物由来CO2(含有炭素)	1.69E+00	kg-CO2e	シ2	自動(数値あり)

[解説]

「ブロック：廃棄物(焼 92・埋 3・リ 5)」では「焼却処理」「リサイクル処理」「埋立処理」の割合があらかじめ計算式として入力されていますので、廃棄物重量を入力するだけで、処理方法別の重量が自動計算されます。また、焼却処理と埋立処理については原単位も入力済みとなっています。焼却に伴う炭素由来の CO2 排出量については、デフォルトで炭素含有率 100%が設定され、CO2 排出量が自動計算されます。リサイクル処理の原単位については、共通原単位に該当するものがないため、「参考データ」として「数値」はblankとなっています。そのため、上の図のように「数値」に「0.02」と入力し、「単位」に「kg」を入力します。ここまでで、「数値定義」シートへの入力は終了です。

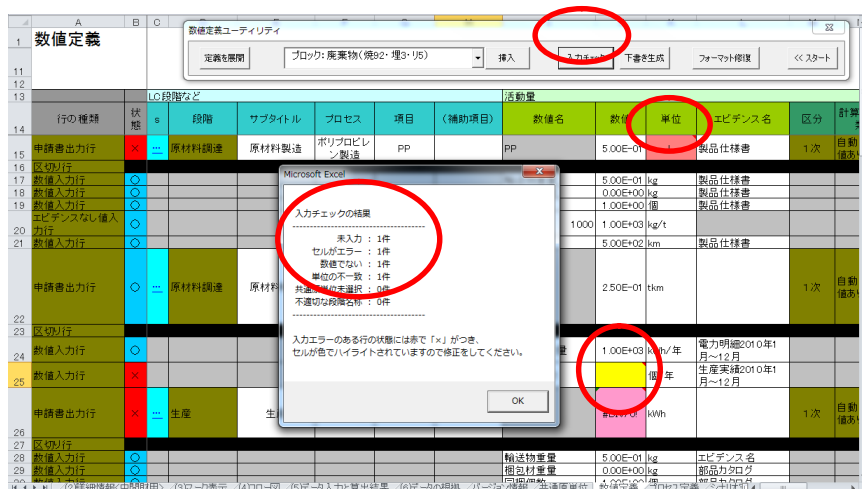
4-3. 検証申請書の作成

4-3-1. 入力内容のチェック

[手順]

- ① 「入力チェック」を実行する

図 16：エラーがある場合の入力チェック後の状態



[解説]

「入力チェック」は、これまでの入力内容が適切かどうかを自動チェックする機能です。未入力セルや単位間違い等の有無を自動的にチェックし、入力ミスがあれば該当セルをピンク色や黄色等に色付けして示します。また同時に、入力した内容に応じて「計算式内容」の列をすべて更新します。

4-3-2. 下書き生成

[手順]

- ① 「下書き生成」を実行する
- ② 「(5)データ入力と算出結果」シートの内容を確認する
- ③ 「(6)データの根拠」シートの内容を確認する

図 17：下書き生成ボタン

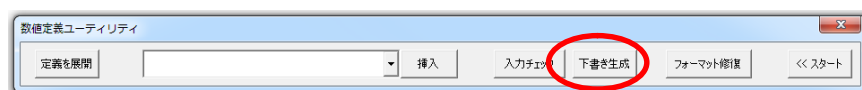


図 18：(5)データ入力と算出結果シート

図 19：(6)データの根拠シート

A	B	C	D
データの根拠：活動量及び原単位のデータ入手方法、計算式、式の説明、データ収集期間、等			非公開資料
参照番号	活動量／原単位	データ入手方法、計算式、式の説明、データ収集期間、等	(必要に応じて) 関係するエピソード資料、説明資料の名称 プロセス番号
A1	活動量	(PP)5.00E+01kg=5.00E+01kg	製品仕様書
B1	原単位	共通原単位 ポリプロピレン(PP)	
A2	活動量	(PP)2.50E+01tkm=((輸送物重量)5.00E+01kg+(梱包材重量)0.00E+00kg÷[同梱個数]1.00E+00個)×[輸送距離]5.00E+02km÷[1000]1.00E+03kg/t	製品仕様書
B2	原単位	共通原単位 トラック輸送(4トン車・積載率50%)	
A3	活動量	[電力]2.00E+00kWh=(年間総電力量)1.00E+03kWh÷年÷[総生産個数]5.00E+02個/年	電力明細2010年1月～12月 生産実績2010年1月～12月

【解説】

引き続き数値定義ユーティリティから「下書き生成」ボタンを押して実行します。入力内容が「(5)データ入力と算定結果」と「(6)データの根拠」に反映され、それぞれの入力済みシートが生成されますので、Excel のシートのタブをクリックするか、スタートへ移動後、青字のテキストリンクをクリックして移動してください。

【重要】

「入力チェック」によって発見されたエラー箇所を修正しない状態で下書き生成を実行すると、エラー箇所を含む行は出力されませんので、必ずエラーをすべて修正した後、下書き生成を実行してください。

「(5)データ入力と算定結果」と「(6)データの根拠」の2シートについては手動で入力や修正を行っても、「下書き生成」を行うたびに再計算されて内容が全て入れ替わってしまいます。修正、変更はかならず「数値定義」シート側へ行うようにして、これら2シートへ直接手入力することはしないでください。

4-3-3. 検証申請書の出力

[手順]

- ① 「検証申請書の出力」を実行する
- ② ファイル名を入力して保存
- ③ 保存したファイルの中身を確認

図 20：スタート画面の申請書出力ボタン

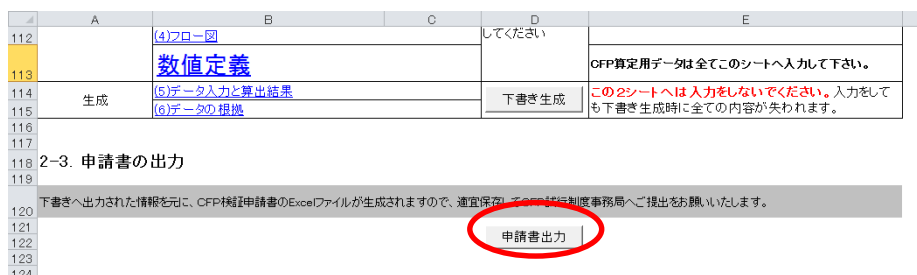
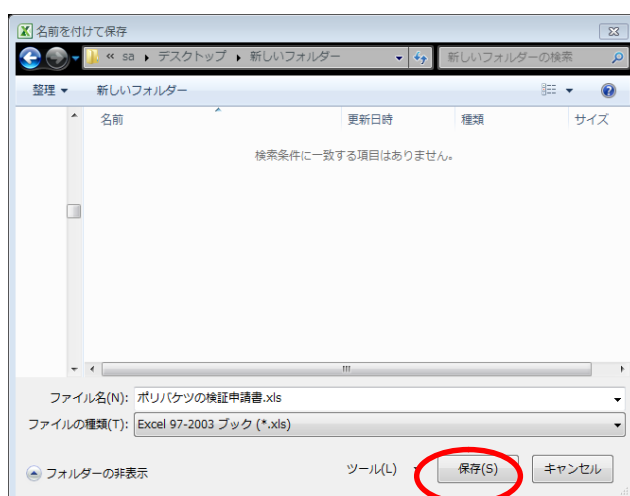


図 21：検証申請書の保存先とフォルダとファイル名を指定する



[解説]

スタート画面へ移動し、「検証申請書の出力」ボタンを押します。保存先を聞かれるので適当なファイル名（ここでは「ポリバケツの検証申請書.xls」）を入力します。

「検証申請書出力」は、CFP 算定キットの対応するシートをコピーして、別ファイルとして保存する機能です。ただし、データ入力と算出結果のシートの影響度合いを表すパーセンテージの3列（Q～S列）については削除をして出力がなされています。

[重要]

「(1)検証申請書」、「(2)詳細情報<最終財用>」、「(2)詳細情報<中間財用>」、「(3)マーク表示、(4)フロー図」の各シートについても CFP 算定キット側で入力した内容がそのままコピーされます。

多くの場合、検証の過程において繰り返し再計算、検証申請書の出力をすることになるため、CFP 算定キット内の該当するシートへ入力しておくことが推奨されます。

5. ポリバケツの算定（テンプレートあり）

5-1. テンプレートのインポート

5-1-1. テンプレートの入手

CFP算定キットのホームページにあるCFP算定キット用チュートリアルパッケージに同封されているチュートリアル例題用テンプレートを使用します。

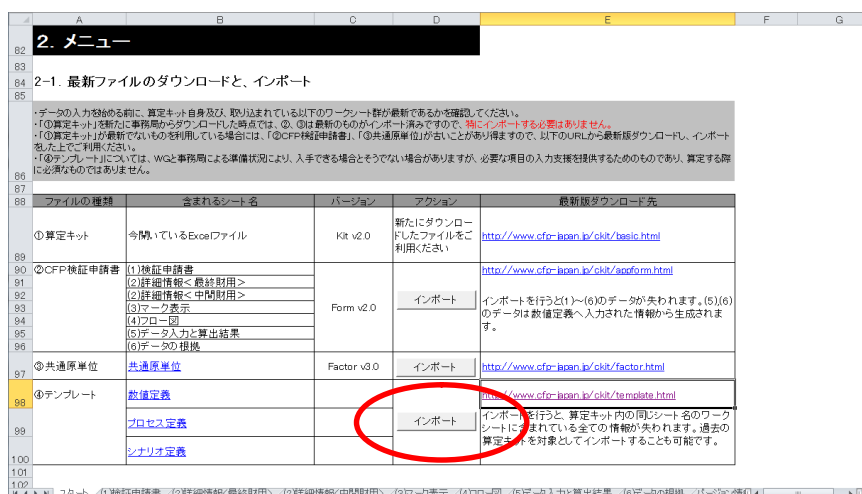
テンプレートは3つのシートからなる Excel ファイルです。

5-1-2. テンプレートのインポート

[手順]

- ① CFP 算定キットのスタート画面へ移動する
- ② テンプレートのインポートボタンを押下する
- ③ インポートされたテンプレートを確認する

図 22：スタート画面でテンプレートをインポート



[解説]

テンプレートを入手後、スタート画面に移動し、テンプレートのインポートボタンを押下、ダウンロードしたファイルを選択して、テンプレートをインポートします。インポート前にバックアップを作成するかどうか聞かれますので「はい」を選択します。インポートすることにより、CFP 算定キットにそれぞれの PCR で規定されるデータ収集項目やシナリオがあらかじめ入力された状態となります。

[重要]

テンプレートをインポートすると、ワークシートがインポートされシートと置き換わるため、それまでに入力した内容がすべて失われます。テンプレートを新たにインポートする前には、バックアップを作成するかを自動で聞かれるので、必ず「はい」を選択してそれまでの作業内容を保存してからインポートをするようにしてください。

5-1-3. インポートされた内容の確認

CFP 算定キット内の「数値定義」「プロセス定義」「シナリオ定義」の各シートにテンプレートがインポートされていることを確認します。数値定義シートは以下のような状態になります。原材料調達段階から廃棄・リサイクル段階まで、PCR で規定されるデータ収集項目やシナリオが展開されていることが確認できます。

図 23：インポートされた数値定義シート

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	数値定義													
11														
12														
13														
14	行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算
15	区切り行													
16	申請書出力行			原材料調達	原材料製造	ポリプロピレン製造	PP		PP	1.00E+00	kg		1次	自動値あり
17	区切り行													
18	数値入力行								輸送物重量	1.00E+00	kg	エビデンス必要		
19	数値入力行								輸送距離	5.00E+02	km	PCR		
20	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t			
21	申請書出力行			原材料調達	原材料輸送	輸送 原材料製造サイト→製品製造サイト	PP		PP	5.00E-01	tkm		シ2	自動値なし
22	区切り行													
23	申請書出力行			生産	生産	射出成型	電力		電力	1.00E+00	kWh		1次	自動値あり
24	区切り行													
25	数値入力行								輸送物重量	1.00E+00	kg	エビデンス必要		
26	数値入力行								輸送距離	1.00E+03	km	PCR		
27	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t			
28	申請書出力行			流通	製品輸送	輸送 製品製造サイト→店舗	製品		製品	1.00E+00	tkm		シ2	自動値なし
29	区切り行													
30	数値入力行								輸送物重量	1.00E+00	kg	エビデンス必要		
31	数値入力行								輸送距離	5.00E+02	km	PCR		
32	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t			

5-2. データの入力

5-2-1. 原材料調達段階－原材料製造の入力

【手順】

- ④ 「PP」の活動量（数値セル）に「0.5」を入力する
- ⑤ 「エビデンス名称」に「製品仕様書」を入力する
- ⑥ 「原単位」（ポリプロピレン(PP)）を選択する

図 24：重量とエビデンスの入力

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	数値定義													
11														
12														
13														
14	行の種類	状態	s	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算
15	区切り行													
16	申請書出力行			原材料調達	原材料製造	ポリプロピレン製造	PP		PP	5.00E-01	kg	製品仕様書	1次	自動値あり
17	区切り行													
18	数値入力行								輸送物重量	1.00E+00	kg	エビデンス必要		
19	数値入力行								輸送距離	5.00E+02	km	PCR		
20	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t			
21	申請書出力行			原材料調達	原材料輸送	輸送 原材料製造サイト→製品製造サイト	PP		PP	5.00E-01	tkm		シ2	自動値なし
22	区切り行													
23	申請書出力行			生産	生産	射出成型	電力		電力	1.00E+00	kWh		1次	自動値あり
24	区切り行													
25	数値入力行								輸送物重量	1.00E+00	kg	エビデンス必要		
26	数値入力行								輸送距離	1.00E+03	km	PCR		
27	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t			
28	申請書出力行			流通	製品輸送	輸送 製品製造サイト→店舗	製品		製品	1.00E+00	tkm		シ2	自動値なし
29	区切り行													
30	数値入力行								輸送物重量	1.00E+00	kg	エビデンス必要		
31	数値入力行								輸送距離	5.00E+02	km	PCR		
32	エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t			

図 25：原単位の選択

	A	B	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
1	数値定義												
11													
12													
13													
14													
15	反切り												
16	申請書出力	1次	自動(数値あり)	[PP]=1.00E+00kg=1.00E+00kg				共通	310003	ポリプロピレン(PP)	1.48	kg	
17	反切り												
18	数値入力												
19	数値入力												
20	エビデンスなし												
21	申請書出力	シ2	自動(数値なし)	[PP]=[輸送物重量]×[輸送距離]÷(1000)	PCR 附属書E			共通	525032	トラック輸送(4トン車+積載率50%)	0.325	tkm	
22	反切り												
23	申請書出力	1次	自動(数値あり)	[電力]1.00E+00kWh=1.00E+00kWh				共通	120001	公共電力	0.475	kWh	
24	反切り												
25	数値入力												
26	数値入力												
27	エビデンスなし												
28	申請書出力	シ2	自動(数値なし)	[製品]=[輸送物重量]×[輸送距離]÷(1000)	PCR 附属書E			共通	525032	トラック輸送(4トン車+積載率50%)	0.325	tkm	
29	反切り												
30	数値入力												
31	数値入力												
32	エビデンスなし												

[解説]

「サブタイトル」「プロセス」「項目」「単位」はインポートしたテンプレートの内容があらかじめ入力されています。ここでは、「数値」および「エビデンス名称」の2か所を入力します。「数値」はデフォルトの「1 (1.00E+00)」となっていますので、ポリバケツの原材料投入量「0.5」(kg)に修正します。「エビデンス名称」はデフォルトではblankとなっていますので、「製品仕様書」と入力します。

次に画面を右方向にスクロールし、下記のような表示域に調整します。次に、「ポリプロピレン製造」の原単位を入力します。前出の「テンプレートなし」の操作方法と同じです。水色セルをクリックして、共通原単位シートを表示させ、入力したい原単位を指定します。ここでは「ポリプロピレン(PP)」を選択します。

5-2-2. 原材料調達段階－原材料輸送の入力

[手順]

- ① 「輸送物重量」の活動量(数値セル)に「参照式[=J16]」を入力する
- ② 「エビデンス名称」に「製品仕様書」を入力する

図 26：活動量項目の入力

数値定義												
数値定義ユーティリティ												
定義を参照 挿入 入力チェック 下書き生成 フォーマット参照 <<スタート												
行の種類	状態	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式
区切り行												
申請書出力行	○	原材料調達	原材料製造	ポリプロピレン製造	PP		PP	5.00E-01	kg	製品仕様書	1次	自動(値あり)
数値入力行	○							5.00E-01	kg	製品仕様書		
数値入力行	○							5.00E-01	kg	製品仕様書		
数値入力行	○							1000	1.00E+03	kg/t		
申請書出力行	○	原材料調達	原材料輸送	輸送 原材料製造サイト→製品製造サイト	PP		PP	2.50E-01	tkm		シ2	自動(値あり)
区切り行												
数値入力行	○							年間総電力量	1.00E+03	kWh/年	電力明細2010年1月~12月	
数値入力行	○							総生産個数	5.00E+02	個/年	生産実績2010年1月~12月	
申請書出力行	○	生産	生産	射出成型	電力		電力	2.00E+00	kWh		1次	自動(値あり)
区切り行												
数値入力行	○							輸送物重量	5.00E-01	kg	製品仕様書	
数値入力行	○							輸送距離	1.00E+03	km	PCR	
数値入力行	○							1000	1.00E+03	kg/t		
申請書出力行	○	流通	製品輸送	輸送 製品製造サイト→製品	製品		製品	5.00E-01	tkm		シ2	自動(値あり)

[解説]

シナリオ設定されている「輸送距離：500km」「輸送手段（原単位）：4 トントラック、積載率 50%」があらかじめ入力されていますので、ここで入力する数値は活動量の「輸送物重量」一か所です。デフォルトでは「1（1.00E+00）」となっていますので、ポリバケツの原材料投入量「0.5」（kg）に修正するために、「=J16」と参照式を入力します。

5-2-3. 生産段階の入力

[手順]

- ① 「ブロック：生産電力（個数配分）」を挿入する
- ② 「サブタイトル」「プロセス」「項目」をコピー&ペーストする
- ③ 「年間総電力量」と「総生産個数」の「数値」と「エビデンス名」を入力する
- ④ ブロック挿入前の「生産」の行を削除する

図 27：ブロックの挿入と活動量項目の入力

行の種類	状態	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	活動名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算
区切り行												
申請書出力行		原材料調達	原材料製造	ポリプロピレン製造	PP		PP	5.00E-01	kg	製品仕様書	1次	自動
区切り行												
数値入力行								5.00E-01	kg	エビデンス必要		
数値入力行								5.00E+02	km	PCR		
エビデンスなし値入力行								1000	1.00E+03	kg/t		
申請書出力行		原材料調達	原材料輸送	輸送 原材料製造サイト→製品製造サイト	PP		PP	2.50E-01	tkm		シ2	自動
区切り行												
申請書出力行		生産	生産	射出成型	電力		電力	1.00E+00	kWh		1次	自動
区切り行												
数値入力行								年間総電力量	1.00E+03	kWh/年	電力明細2010年1月~12月	
数値入力行								総生産個数	5.00E+02	個/年	生産実績2010年1月~12月	
申請書出力行		生産	生産	射出成型	電力		電力	2.00E+00	kWh		1次	自動
区切り行												
数値入力行								輸送物重量	1.00E+00	kg	エビデンス必要	
数値入力行								輸送距離	1.00E+03	km	PCR	

【解説】

ここではあらかじめ、「サブタイトル」「プロセス」「項目」にそれぞれ「生産」「射出成形」「電力」が入力されており、右方向にスクロールすると「原単位」に「公共電力」が入力されています。したがって入力項目は「活動量」の「数値」（電力使用量）と「エビデンス名」となります。ここでは、電力使用量は生産個数配分により算出しますので、「年間電力使用量」と「年間生産量」の 2 つの数値を入力する必要があります。そこで、これら数値を入力するための新しい行を以下の手順で追加します。

1. 生産の行のひとつ下の区切り行（24 行）全体をクリックしてアクティブにし、その状態で右クリックから「挿入」を実行し、ブランク行を一行挿入します。ブランク行が 24 行に挿入されたことを確認したら、「数値定義ユーティリティ」画面のプルダウンから「ブロック：生産電力（個数配分）」を選択して「挿入」ボタンをクリックします。
2. 「年間総電力量」「総生産個数」「生産時の電力」の 3 つの数値名を含むあらたな 3 行が追加されました。ここで「年間総電力量」に「1000」、「総生産個数」に「500」と入力します。「生産時の電力」の数値セルに 2（2.00E+00）と自動計算された結果が表示されます。「サブタイトル」「プロセス」「項目」についてはデフォルト設定状態なので、テンプレートで読み込んだ「生産」「射出成形」「電力」をコピー＆ペーストします。
3. 最後に、ブロック行を追加したために、もともとあった「生産」（A23）は不要となりますので、これを削除して、2 重計上にならないようにします。ここでは A23、A24 および A28 の 3 行を削除します。（*コントロールキーを押して同時に選択して削除）

5-2-4. 流通段階－製品輸送の入力

【手順】

- ① 「輸送物重量」の活動量（数値セル）に「参照式[=J16]」を入力する
- ② 「エビデンス名称」に「製品仕様書」を入力する

図 28：活動量項目の入力

行の種類	状態	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	数値名	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式
数値入力行	○						総生産個数	5.00E+02	個/年	生産実績2010年1月～12月		
申請書出力行	○	生産	生産	射出成型	電力		電力	2.00E+00	kWh		1次	自動(値あり)
区切り行												
数値入力行	○						輸送物重量	5.00E-01	kg	製品仕様書		
数値入力行	○						輸送距離	1.00E+03	km	PCR		
エビデンスなし値入力行	○							1000	1.00E+03	kg/t		
申請書出力行	○	流通	製品輸送	輸送 製品製造サイト一店舗	製品		製品	5.00E-01	kg		シ2	自動(値あり)
区切り行												
数値入力行	○						輸送物重量	5.00E-01	kg	製品仕様書		
数値入力行	○						輸送距離	5.00E+01	km	PCR		
エビデンスなし値入力行	○							1000	1.00E+03	kg/t		
申請書出力行	○	廃棄・リサイクル	廃棄物輸送	輸送 ゴミ集積所一処理施設	廃棄物		廃棄物	2.50E-02	kg		シ2	自動(値あり)
区切り行												
数値入力行	○						廃棄物重量	5.00E-01	kg	製品仕様書		
数値入力行	○						焼却処理の割合	9.20E+01	%	シナリオ		
数値入力行	○						リサイクル処理の割合	5.00E+00	%	シナリオ		

【解説】

シナリオで規定されている「輸送物重量」と「輸送距離」の入力行が設定されています。原単位にはシナリオで規定されている「4 トントラック、積載率 50%」の数値が入力され、「輸送距離」はシナリオの「1000 (1.00E+03) (km)」が入力されていますので、「輸送物重量」の「数値」を入力します。ここではポリバケツの製品重量を入力しますが、原材料調達段階のポリプロピレン製造の「数値」を参照する計算式 (=J16) と入力します。

5-2-5. 廃棄・リサイクル段階－廃棄物輸送の入力

【手順】

- ① 「輸送物重量」の活動量（数値セル）に「参照式[=J16]」を入力する
- ② 「エビデンス名称」に「製品仕様書」を入力する

図 29：活動量項目の入力

数値定義ユーティリティ												
数値定義												
定義も参照												
挿入 入力チェック 下書き生成 フォーマット回復 <<スタート												
行の種類	状態	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	活動量	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式
数値入力行	○						輸送物重量	5.00E-01	kg	製品仕様書		
数値入力行	○						輸送距離	1.00E+03	km	PCR		
エビデンスなし値入力行	○						1000	1.00E+03	kg/t			
申請書出力行	○	流通	製品輸送	輸送 製品製造サイト→店舗	製品		製品	5.00E-01	tkm		シ2	自動(値あり)
区切り行	○											
数値入力行	○						輸送物重量	5.00E-01	kg	製品仕様書		
数値入力行	○						輸送距離	5.00E+03	km			
エビデンスなし値入力行	○						1000	1.00E+03	kg/t			
申請書出力行	○	廃棄・リサイクル	廃棄物輸送	輸送 廃棄物処理施設	廃棄物		廃棄物	2.50E-02	tkm		シ2	自動(値あり)
区切り行	○											
数値入力行	○						廃棄物重量	5.00E-01	kg	製品仕様書		
数値入力行	○						焼却処理の割合	9.20E+01	%	シナリオ		
数値入力行	○						リサイクル処理の割合	5.00E+00	%	シナリオ		
数値入力行	○						埋立処理の割合	3.00E+00	%	シナリオ		
数値入力行	○						炭素の割合	1.00E+02	%	製品仕様書		
エビデンスなし値入力行	○						CO2/C	3.67E+00	CO2e/kg-C			

【解説】

シナリオで規定されている「輸送距離」と「原単位」があらかじめ入力されていますので、数値入力は「輸送物重量」一か所です。

5-2-6. 廃棄・リサイクル段階－廃棄物処理の入力

【手順】

- ① 「輸送物重量」の活動量（数値セル）に「参照式[=J16]」を入力する
- ② 「エビデンス名称」に「製品仕様書」を入力する
- ③ 「廃棄物（リサイクル分）」の「原単位名」「数値」「単位」を入力する

図 30：活動量項目の入力

数値定義ユーティリティ												
数値定義												
定義も参照												
挿入 入力チェック 下書き生成 フォーマット回復 <<スタート												
行の種類	状態	段階	サブタイトル	プロセス	項目	(補助項目)	活動量	数値	単位	エビデンス名	区分	計算式
数値入力行	○						輸送物重量	5.00E-01	kg	製品仕様書		
数値入力行	○						焼却処理の割合	9.20E+01	%	シナリオ		
数値入力行	○						リサイクル処理の割合	5.00E+00	%	シナリオ		
数値入力行	○						埋立処理の割合	3.00E+00	%	シナリオ		
数値入力行	○						炭素の割合	1.00E+02	%	製品仕様書		
エビデンスなし値入力行	○						CO2/C	3.67E+00	CO2e/kg-C			
申請書出力行	○	廃棄・リサイクル	廃棄物処理	焼却処理	廃棄物(焼却処理分)		廃棄物(焼却処理分)	4.60E-01	kg		シ2	自動(値あり)
申請書出力行	○	廃棄・リサイクル	廃棄物処理	焼却処理	廃棄物(炭素由来の排出量)		廃棄物(炭素由来の排出量)	1.69E+00	kg-C/CO2e		シ2	自動(値あり)
申請書出力行	○	廃棄・リサイクル	廃棄物処理	埋立処理	廃棄物(埋立処理分)		廃棄物(埋立処理分)	1.50E-02	kg		シ2	自動(値あり)
申請書出力行	○	廃棄・リサイクル	廃棄物処理	リサイクル処理	廃棄物(リサイクル分)		廃棄物(リサイクル分)	2.50E-02	kg		シ2	自動(値あり)

数値定義											
行の種類	区分	計算式種類	計算式内容	備考	区分	s	id	原単位名	数値	単位	データの根拠
区切り行											
数値入力行											
数値入力行											
数値入力行											
数値入力行											
数値入力行											
数値入力行											
エピソードなし値入力行											
申請書出力行	シ2	自動(数値あり)	(廃棄物(焼却処理分)) $4.60E-01 \text{ kg} = \text{[廃棄物重量]}5.00E-01 \text{ kg} \times \text{[焼却処理の割合]}$ $9.20E+01 \pm 1.00$		共通		428002	焼却処理(一般廃棄物)	0.0334	kg	
申請書出力行	シ2	自動(数値あり)	(廃棄物(炭素由来の排出量)) $1.69E+00 \text{ kg-CO}_2\text{e} = \text{[廃棄物(焼却処理分)]}$ $4.60E-01 \text{ kg} \times \text{[炭素の割合]}$ $1.00E+02 \pm 1.00 \times \text{[CO}_2\text{/C]}$ $3.67E+00 \text{ kg-CO}_2\text{e/kg-C}$		その他				1		
申請書出力行	シ2	自動(数値あり)	(廃棄物(埋立処理分)) $1.50E-02 \text{ kg} = \text{[廃棄物重量]}5.00E-01 \text{ kg} \times \text{[埋立処理の割合]}$ $3.00E+00 \pm 1.00$		共通		428001	埋立処理(一般廃棄物)	0.0379	kg	
申請書出力行	シ2	自動(数値あり)	(廃棄物(リサイクル分)) $2.50E-02 \text{ kg} = \text{[廃棄物重量]}5.00E-01 \text{ kg} \times \text{[リサイクル処理の割合]}$ $5.00E+00 \pm 1.00$		参考				0.02	kg	

[解説]

シナリオ設定されている「焼却処理」「リサイクル処理」「埋立処理」の割合があらかじめ計算式として入力されていますので、廃棄物重量を入力するだけで、処理方法別の重量が自動計算されます。また、焼却処理と埋立処理については原単位も入力済みとなっています。焼却に伴う炭素由来の CO2 排出量については、デフォルトで炭素含有率 100%が設定され、CO2 排出量が自動計算されます。リサイクル処理の原単位については、共通原単位に該当するものがないため、「参考データ」として「数値」はblankとなっています。そのため、上の図のように「数値」に「0.02」と入力し、「単位」に「kg」を入力します。ここまでで、「数値定義」シートへの入力は終了です。

5-3. 検証申請書の作成

検証申請書の出力については「5-3」と同様にして進めます。

ここでは解説を省略しますが出力を行うと、テンプレートなしの場合に作成したのと同じ結果が得られます。

6. 注意事項・付加情報

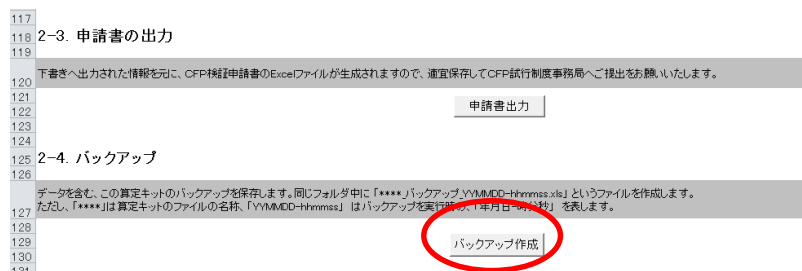
6-1. 操作マニュアル

CFP 算定キットには、ほぼ全ての機能について詳細に解説した操作マニュアルがご利用になれます。

6-2. バックアップの作成

テンプレートのインポート時にバックアップの作成を行うか否かのダイアログが表示されますが、このバックアップは手動で行うこともできます。こまめにバックアップを取得することで編集ミスなどにより、データを失った場合に容易にその時点のデータまで戻ることができます。

図 31：スタート画面の「バックアップ作成」ボタン



6-3. 「段階」を修正するときの注意点

「数値定義」シートの「段階」のセルを修正すると、修正と同時に当該行の「サブタイトル」「プロセス」「項目」の3項目に入力されている情報が失われます。(すべて空白になります)「段階」の変更は、「サブタイトル」「プロセス」「項目」を入力・修正する前に実行してください。

例えば、ブロック行の「ブロック：国内の輸送」は「段階」がデフォルトでは原材料調達となっていますが、「流通」や「廃棄・リサイクル」でこのブロック行を使用する場合には注意してください。